

## CONTENTS

企画展 資料が秘めた物語 .....	2
研究報告会 一枚の絵画が語り始めた .....	3
洋学資料館の夏休み教室開催！ .....	4
NEWS FILE .....	5
ハナハゼのハナは花子のハナ .....	6
資料展示品から .....	7
INFORMATION (備し物のご案内) .....	8

# 洋学 資料館

No. 5

September, 2011

県道 70 号久米建部線沿いの美咲町三保辺りです。県道沿いにある墓所には幕末から明治期にかけて地域の医療活動に尽力した女医光後玉江が眠っています。墓所の向こうに見えるサイロ辺りが、かつて光後家の屋敷が建っていた場所と伝えられています。玉江が診療を行った興禅寺には、関係資料が今も大切に保存されています。



津山洋学資料館  
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING



**川村清雄 (1852~1934)**

旗本川村帰元修正の長男として江戸に生まれ、南画家田能村直入や春木南溟、川上冬崖、高橋由一らに師事しました。1871(明治4)年、徳川宗家の給費生としてアメリカへ渡り、フランスを経てさらにイタリアのベネチア美術学校に学びました。1881(明治14)年に帰国し、大蔵省に入局しますが、1年で退職。その後は勝海舟ら旧幕臣の庇護を受けて、「徳川歴代將軍像」「かたみの直垂」などの代表作を描きました。

眞作秋坪 肖像写真(右)  
男性下絵(中央) 江戸東京博物館 所蔵  
眞作秋坪 肖像画(左) 館蔵



資料が秘めた物語

歴史資料には、その資料が生まれ、長い年月を伝えられるなかで経た、様々な物語が隠されています。6月11日から開催している企画展「資料が秘めた物語」では、そうした資料の持つ物語を、一話ずつ紹介しています。

その中のひとつ、宇田川榕菴の『植学啓原』は、榕菴とシーボルトの交流秘話を教えてくれます。実は、この書で紹介されている植物「都苦拔涅」の学名「カレーロプレス・ヨウアン」は、シーボルトが発見者の榕菴の名前を入れて名付けたものなのです。榕菴はよほど嬉しかったのでしょうか、自分の著書の中で紹介したのでした。

この他にも杉田玄白の『蘭学事始』や、岸田吟香の眼薬「精銚水」など、20の物語を紹介しています。資料と解説を見比べて「へえ」「なるほど」と声をあげる方も多く、「資料の奥深さを感じられ、とても興味深かった」などの感想が寄せられています。資料をじっくりと見る楽しみを感じていただくことができましたのではないのでしょうか。

本展は9月25日まで開催しています。観覧がお済みでない方はぜひ期間中に足をお運びください。

企画展「資料が秘めた物語」関連研究報告会

「一枚の絵画が語り始めた」

8月27日には、この企画展の関連行事として展示中の眞作秋坪肖像画について、研究報告会を開催しました。

この肖像画は平成13年に眞作佳吉のご令孫・秋次さんから資料館へ寄贈されました。サインが入っていないため作者が分からず、長年調査が続けていました。最近になって絵のもとになったと考えられる秋坪の肖像写真を発見。さらに東京藝術大学教授の木島康隆先生に絵を見ていただいたところ、川村清雄ではないかとのご教示をいただきました。それをきっかけにして、もつれた糸がほどけるようにして新たな事実が分かってきたのです。

川村清雄をキーワードに調査をすると、平成23年に秋次さんから追加贈された資料の中に、佳吉に宛てられた川村清雄の書簡と借用証書があることを確認。さらに、江戸東京博物館の所蔵する「川村清雄関係資料」中に肖像画の下書きを発見し、川村の作と断定することができました。

報告会では、こうした事実が分かるまでの研究過程を資料館職員が発表。一つの資料を探求し、そこに秘められた物語を読み解く楽しさをお伝えすることができたと思います。



研究報告会の様子 約60名の方が参加されました



NEWS FILE

箕作元秋さん来館

6月19日、阮甫から数えて5代目にあたる箕作元秋さんが、資料館をはじめて来館されました。元秋さんは西洋史学者・箕作元八のご令孫です。下山館長の案内で展示室をじっくりと見学され、祖父元八が留学中に記した「えびらうめ「えびらうめ」を見て、特に感慨深く感じたとお話してくださいました。

洋学資料館で  
職場体験学習実施

6月15日、中学生の職場体験学習「チャレンジワーク・つやまっ子デビュー14」で、津山東中学校2年生の蓬合慶彦君が資料館を訪れました。館内の清掃や、古い洋書の整理と目録作成などを手伝ってもらい、1日だけでしたが即戦力となって活躍してくれました。



津山高専で  
子供実験・工作教室

6月18日、前号で紹介した津山工業高等専門学校と資料館の共同企画「江戸時代の科学を楽しむ子供実験・工作教室」の第1回が津山高専で開催されました。資料館学芸員が宇田川榕菴の生涯や業績について説明をしたのち、高専の佐藤先生・廣木先生の指導で小中学生約40名がボルタ電池づくりに挑戦しました。7月は第2回からくり人形づくりが実施されました。この教室についてのお問い合わせは津山高専まで。



「MYTownつやま」  
活用事業関連  
津山市研修会開催

8月4日、津山市教育委員会の主催で、学校の先生を対象にした研修会が資料館で行われました。これは「津山のことを知り、津山を誇りに思える子供を育てる」ことを目的に、まずは先生に津山について知ってもらおうと実施されたものです。最初に下山館長の案内で展示室を見学したのち、津山高専の佐藤先生・廣木先生の指導で『舎密開宗』に掲載された化学実験の再現を行いました。終了後には「早速子供たちにも教えてあげたい」などの声が聞かれました。



洋学資料館の  
夏休み教室 開催!

江戸時代の化学書からの実験  
この実験教室は、世界化学年の趣旨に賛同して実施しています



8月4日には、津山高専の佐藤誠先生と廣木一亮先生、津山高専の山本芳美先生、各校の学生の皆さんの指導のもと、宇田川榕菴が出版した『セウミカウ舎密開宗』に掲載された実験の再現を行いました。榕菴が水を電気分解するために作った「ボルタ電池」や、ムラサキキャベツから酸性・アルカリ性によって色が変化する液体を作り、参加した皆さんは、好奇心に目を輝かせて実験に見入っていました。



ヒンデローベン絵付け体験教室  
ブルーとグリーンの際に  
バラやチューリップの絵を描きました

昨年引き続き、今年も夏休み教室を開催しました！7月31日には、kinukoヒンダローペンスタジオ主宰の永江絹子先生を講師にお迎えして、キーチェーンや傘にヒンデローペンで絵付けをしました。午前・午後あわせて27名の方が参加され、終了後には「難しかったけど、楽しかった」との声が多数寄せられました。完成したばかりの傘を、早速さして帰る方もいらっしゃいました。

# ハナハゼのハナは花子のハナ

唐突ですが、「へえ〜」という話を…。日本近海とはいっても、内海などに生息する魚にハゼがいます。その仲間にハナハゼという、ダイバーにも人気の美しいハゼがいます。ダテハゼとテップウエビの巣穴に居候するという、少々図々しい習性でも有名です。ネット検索でもたくさん画像が見つかりますので一度ご覧ください。



ハナハゼ  
—写真提供— 神奈川県立生命の星・地球博物館  
撮影：瀬能 宏さん

そのハナハゼの名前が、津山藩医眞作阮甫の七番目の孫で、世界で初めて養殖真珠を成功させた御木本幸吉（ミキモト創業者）を学術的に指導した海洋動物学者の眞作佳吉博士に因っているというのですから、これはありうる話。

さて、ここからが本題です。じつはハナハゼの「ハナ」は、御令嬢「花子さん」に由来するというのです。そのことを、魚類学者の田中茂穂が昭和9年に著した『奇魚珍魚』という本の中に書いているのです。



眞作佳吉家族写真 左から良次・新六・安・ハナ(花)・佳吉  
写真提供 — 吉阪昭次さん —

ハナハゼは標準和名ですが、学名は hanae で、命名された論文の著者、魚類学者ジョルダンが、その語源として…

「Hana, a flower, the name of Professor Mitsukuri's daughter.」

と記しています。後にスタンフォード大学学長を勤めたジョルダンは、大の親日家でした。当時の日本にも魚の採集に何度となく訪れ、多くの弟子を育てましたが、田中もその一人だったそうです。

最近東京湾で頻りに捕獲される深海ザメのミツクリザメは、眞作佳吉の名がついた

鮫としてテレビ番組に何度も取り上げられ、すっかり有名になってしまいました。ハナハゼにもそんな秘密があったとは。

花子（戸籍上はハナ）さんは1897（明治30）年生まれ、後に国際労働機関（ILO）日本代表などを歴任した吉阪俊蔵に嫁し、二男一女に恵まれ、1983（昭和58）年に87歳で他界されています。ご次男の昭治さんに、「御母堂さまは、そのことをどう思われていたのでしょうか」とお尋ねしたところ、「母は時折、私の名前のついた魚がいるのよ！と自慢げに話していましたよ」とのこと。花子さんはやはりご存じだったのです。

これは余談ですが、ご長男の建築家吉阪隆正（早稲田大学教授）先生に学んだのが、新津山洋学資料館を設計された建築家富田玲子さんなのであります。

以上の話は、眞作温子さん（眞作麟祥ご子孫）が、お嬢様の自由研究の題材にミツクリザメを取り上げた際、指導をいただいた神奈川県立生命の星・地球博物館（小田原市）の学芸員瀬能宏さんからうかがった話を元に紹介させていただきました。

瀬能さんによると、今、このハナハゼの語源について知る研究者はほとんどいないとのこと。う〜ん残念！

文：館長 下山純正

## 資料館展示品から

宇田川榕菴が訳述した日本で最初の本格的な化学書

### セイミかいそう『舎密開宗』



今号は、『舎密開宗』からの再現実験の話題が満載ですね。

『舎密開宗』は、津山藩医の宇田川榕菴が訳述した、日本で最初の本格的な化学書です。タイトル「舎密」とはオランダ語の Chemie（化学）を音訳したものです。天保8年（1837）から、榕菴が亡くなった翌年の弘化4年（1847）まで刊行されました。イギリス人ウィリアム・ヘンリーの原著を、オランダ人科学者のイペイが増補したオランダ語版を訳したのですが、「榕按二：（榕菴が考えるに：）」と、二十数

冊の本を参考にした注記や、自分で実際に行った実験の結果をたくさん書き加えています。翻訳というよりも、榕菴自身の著述と

言っても良いかもしれません。さて、この書で紹介されているのが、今回夏休み教室で作った「ボルタの電池」です。これはイタリヤ人ボルタが発明した、電池の原型に当たる装置で、希硫酸をこませた紙と銅板と亜鉛板を順に積み重ねて電気を発生させます。『舎密開宗』で榕菴は「ボルタの電池は近世発明の奇器」だと言って、自身の考察も加えて詳しい作

り方を説明しています。武田科学振興財団杏雨書屋が所蔵する「瓦華尼越列機児造作略記」という稿本には、天保2年（1831）に榕菴が弟子とともに「ボルタ電池」作りに挑戦した

様子が詳しく記されています。材料を揃えるにも一苦労だったようで、準備に2ヶ月かかっています。結果は大成功で、さわるど驚くほどの振動（電気）を感じたことがあります。ワクワクしながら実験に取り組む榕菴の姿が目につかふようです。

文：学芸員 田中美穂

### 宇田川家ご後裔 小森雅江さん逝く

宇田川興斎のご曾孫・小森雅江さんが、7月4日に94歳でお亡くなりになりました。平成10年に行われた宇田川玄随・玄真・榕菴三代の墓所移転事業をはじめ、これまで資料館や友の会の活動に、大変なご理解とお力添えをいただきました。

ご家族のお話では、「昨秋、どうしても新館を拝見したいと、体調の優れぬなかをお邪魔しましたが、帰路は、その素晴らしい展示を拝見させていただいたせいか体調も良く、大変喜んでおりました」とのこと。

これまでのご厚情に感謝申し上げますとともに、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。



平成22年10月17日ご来館の折に宇田川榕菴像の前で

# INFORMATION

## 平成23年度の催し物(予定) 企画展

4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「彩生 - オランダ伝統の技と美 -」</li> <li>2 ワークショップ「春桜～チェンバロの音色と共に～」</li> <li>23 第65回文化講演会 講師：kinuko ヒンダローベンススタジオ主宰 永江絹子 先生</li> <li>23 友の会総会 (休館日：18・25・30日)</li> </ul>	4/2～ オランダ伝統の技と美・ 彩生 ～5/29
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>28・29 友の会創立30周年記念研修バス旅行 (休館日：2・6・9・16・23・30日)</li> </ul>	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「資料が秘めた物語」 (休館日：6・13・20・27日)</li> </ul>	6/11～ 資料が秘めた物語
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>4～8 燻蒸作業にともなう休館</li> <li>31 ヒンダローベン絵付け体験教室 (休館日：4～8・11・19・20・25日)</li> </ul>	
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>4 江戸時代の化学書からの再現実験</li> <li>27 企画展関連研究報告会 (休館日：1・8・15・22・29日)</li> </ul>	
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>(休館日：5・12・20・21・24・26日)</li> </ul>	～9/25
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「蛮書和解御用と津山藩の洋学者」</li> <li>23 上廣倫理財団文化フォーラム (休館日：3・11・12・17・24・31日)</li> </ul>	10/8～ 津山藩の洋学者 蛮書和解御用と ～11/6
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>13 友の会創立30周年記念セミナー</li> <li>友の会史跡見学会</li> <li>企画展「幕末維新を駆け抜けた女医 光後玉江」 (休館日：4・7・14・21・24・28日)</li> </ul>	
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>10 英学史学会中四国支部大会 (休館日：5・12・19・26～31日)</li> </ul>	11/19～ 幕末維新を駆け抜けた女医 光後玉江 ～4/15
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>友の会30周年記念誌刊行</li> <li>第66回文化講演会(下旬開催予定) 講師：佐賀大学大学院教授 青木歳幸先生 (休館日：1～4・10・11・16・23・30日)</li> </ul>	
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>(休館日：6・13～20・27日)</li> </ul>	
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>(休館日：5・12・19・21・26日)</li> </ul>	

■企画展 ■催し物 ■講演会 ■友の会



— 臨時休館のお知らせ —  
 点検工事作業のため、下記の期間は休館いたします。ご了承ください。  
 平成24年  
**2月13日(月)～2月20日(月)**  
 13日(月) 通常休館  
 14日(火) 祝日振替休館  
 15日(水)～19日(日) 臨時休館  
 20日(月) 通常休館

### ご利用案内

- 開館時間／9:00～17:00  
(入館は16:30まで)
- 休館日／月曜日(祝祭日の場合はその翌日)  
祝祭日の翌日・年末年始(12月27日～1月4日)
- 入館料／

一般	高校生・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)

※( )内は30名以上の団体料金です。  
 ※小学生・中学生は無料です。



〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地  
 TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864  
 URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



- 交通のご案内
- ・JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で10分、西新町下車徒歩2分
- ・中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分